

令和3年度
鹿角市総合教育会議

会 議 録

令和3年11月1日

鹿 角 市
鹿角市教育委員会

令和３年度鹿角市総合教育会議を令和３年１１月１日午後３時から大湯ストーンサークル館縄文工房にて開催した。

１．出席した者の氏名は、次のとおりである。

市 長	関 厚
教 育 長	畠 山 義 孝
教育委員	安 倍 良 行
教育委員	田 中 喜 昭
教育委員	和 田 学
教育委員	吉 田 孝 子

２．事務局職員として出席した者の氏名は、次のとおりである。

総 務 部

政策企画課長	古 田 渡
同 総合戦略室長	成 田 仁 文

産 業 部

産業部次長兼産業活力課長	阿 部 正 幸
同 観光交流班長	黒 澤 香 澄

教育委員会

教育部長	加 藤 卓
教育次長兼生涯学習課長	花ノ木 正 彦
総務学事課長	守 田 敏 子
総務学事課学事指導管理監	成 田 勇 信
スポーツ振興課長	成 田 匡
大湯ストーンサークル館副館長	熊 谷 純 明

３．協議事項

（１）重点的に講ずべき施策について

①ヘリテージ・ツーリズムの推進について

４．傍聴人数 ３人

5. 会議の概要は次のとおりである。

教育部長	皆さんこんにちは。定刻より若干早いのですが皆さんお揃いですので、ただいまから令和3年度鹿角市総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、関市長よりご挨拶申し上げます。
関市長	本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様には、日頃より本市の教育行政の充実、発展はもとより、市政全般にわたりご理解とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りしまして衷心より感謝申し上げます。 さて、ご承知のとおり、今年7月27日に、本市が誇る大湯環状列石が「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産登録が決定したことは、大変喜ばしいことであり、これまでの関係各位のご尽力に敬意を表するものであります。また、本館への入場者数も大変多くなっております。今年度は「第7次鹿角市総合計画」の初年度として、8つのまちづくり戦略を掲げ各施策を着実に推進していくこととしておりますが、その中でも特に、全国、世界に認められる「世界遺産のまち」を目指し、文化財の保存と観光資源としての活用を図ってまいりたいと考えております。 この会議は、教育委員の皆様と直接意見を交わす場として、大変意義のあるものと捉えております。このあと、事務局よりご説明申し上げますが、忌憚のないご意見、ご指摘を賜りますようお願い申し上げます。一言、開会のあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。
教育部長	ありがとうございました。 続きまして畠山教育長よりご挨拶をお願いいたします。
畠山教育長	はい。皆さんご苦勞様でございます。今年度の総合教育会議、市長が主催する会議でありまして、まさに今来年度の予算編成作業に着手しているところであります。総合教育会議はその名のとおり、教育行政全般にわたって市長と教育委員の皆様方とで活発な議論を交わしながら、教育行政若しくは市長部局の関係部署との連携を保つ政策や事業、予算に寄与できればというような側面もございますので、非常にタイムリーな時期に開催できましたことに感謝申し上げますし、例年でありますと市役所の中で会議を開催しておりましたが、今日はストーンサークル館で、休館日なのですが開けていただいて、その場を提供していただきました。 ご承知のとおり、わが市では、国、県、市それぞれ指定文化財が合計で73件ございます。市の文化財は指定が56件ということになっていまして、また、国の登録建築物の文化財に関しては、渡部家が3件、関善さんが1件となっております。さらには産業遺産としても認知されております尾去沢の史跡尾去沢鉱山がございます。ヘリテージ・ツーリズムはまさしく歴史遺産をどう保存し活用していくかという大きなテーマがあるのですが、こういった市独自の文化財を含めて芸術とあわせながら文化行政にどういう形で未来の手に渡していくのか、そういった視点も交えながら、本日も議論いただければと思っております。実りある成果、議論となりますことを願いつつ私のあいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。
教育部長	ありがとうございました。 それでは協議に入りますが、これより会議の進行は関市長をお願いいたします。
関市長	それでは、協議に入らせて頂きます。次第4の協議事項といたしまして、重点的に講ずべき施策について、「ヘリテージ・ツーリズムの推進について」産業活力課から説明をお願いします。

産業部次長兼産業活力課長	はい、産業活力課長の阿部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私の方から、ヘリテージ・ツーリズムの推進について、座って説明させていただきます。 横版の資料をご覧いただきたいと思います。1ページをめくっていただきまして、本市のヘリテージ・ツーリズムがいつから始まったかというのが書いていますけれども、ヘリテージについては、文化財、歴史文化遺産をヘリテージと言っていますが、世界級の文化遺産がこのとおり4つほど、これ以外にも世界級はあると思いますけれども、まず大日堂舞楽、花輪ばやし、大湯環状列石は今年世界文化遺産に登録されました。それから毛馬内の盆踊りも風流踊りの一つとしてユネスコ無形文化遺産登録に向けて活動中でございます。こうしたもののほか多くの伝統芸能、史跡尾去沢鉱山のような産業遺産、紫根染め茜染めといった伝統工芸、佐多六とシロ、だんぶり長者など多くの伝説民話がありますので、まさにヘリテージの宝庫だと思っています。このような他地域と差別化できる強みである多くの文化財を滞在型観光の中核となる誘客コンテンツとして生かしていこうということで、ヘリテージ・ツーリズムを市として進めていこうと、これが平成31年、令和元年からでありました。 次のページをめくっていただきまして、令和元年からの取り組みですけれども、このヘリテージ・ツーリズムを地方創生のために国が配分してくれる地方創生推進交付金というお金があるわけですが、国の補助が2分の1になっています。それを活用して進めていこうと、このとおり既存の事業も含めまして、鹿角ヘリテージ・ツーリズム創生プロジェクトとしてまとめて、3年間取り組みを続けてまいりました。中核となりますのは右から2つ目の白で囲ってあります「文化財活用」のところの大湯ストーンサークル世界遺産登録推進事業、大湯環状列石魅力アップ事業といった教育委員会で進めている事業、それからその下の「プロモーション」のくくりであります。かづのプレミアムツアー造成事業、これは夏の花輪ばやし、冬の大日堂舞楽などにあわせて、その他の史跡尾去沢鉱山とか文化遺産を回るような旅をプレミアムツアーとしてまとめて売り出して誘客を図ろうという取り組みですが、こういったものを産業活力課の方で実施して、教育委員会と一緒にヘリテージ・ツーリズムを推進しています。 次のページをお願いします。このヘリテージ・ツーリズムは今申し上げましたとおり、7次総の前、6次総の後期計画から始まっていますが、新しい10年間の第7次総合計画の策定にあたりまして、このヘリテージ・ツーリズムの考え方を更に打ち出しまして、鹿角市では世界遺産のまちといっているのではないかとということで経営戦略という大きい柱の一つに「世界遺産のまち」をつくるというのを掲げました。目標としましては、文化財が豊富で誇れるまちであると思う市民の割合を、令和元年度は51.3%でしたけれども、60%まで上げていこうという目標を掲げました。この戦略を進めるにあたりまして2つの取組方針を設定し、一つは「文化財の保存に取り組みます」ということで、きちんと文化財を守っていく、それから「ヘリテージ・ツーリズムに取り組みます」という取組方針を掲げまして、この部分が教育委員会との垣根を越えて進めていく部分です。特に③の観光資源としての文化の最大限の活用としては今年度文化庁のLiving Historyという事業を導入し、大湯環状列石の世界文化遺産登録にあわせまして、ここでの体験プログラムを作っていく事業に力を入れていきます。 次のページからは、大湯環状列石JOMON体感促進事業についてご紹介したいと思います。これは文化庁のLiving History 促進事業というもので、文化財をただの文
--------------	--

	化財とせず、今に生きる、我々も学びながら観光コンテンツとして生かしながらその収益をもってさらに文化財の付加価値を高める、そういう好循環を創り出していこうという文化庁の事業であります。まさに、教育、保存、それから活用と上乗せしていく事業でありました。こういう経緯がありまして、今年度3つのプログラムを行うこととしております。一つは暮らし、二つ目が心の豊かさを体感できる祭りに焦点を当てたもの、三つ目はそれらを映像で実感してもらおうというプログラムです。詳しくは次のページになります。 6 ページ目にイメージで表していますけれども、一つ目の食のプログラムでは出土した特徴的な土器のレプリカを作製いたしまして、その土器レプリカをもとに当時の縄文食を再現していく、今いろいろ検討を進めていますけれども、できるだけ思いつきで作った料理ではないということで、学者さんに入ってもらっていますが、土器の中についたおこげとか炭化物などを分析して、実際どういったものが食べられたのか、固い実なのか魚なのかというところを分析してもらって、できるだけ科学的な裏付けのある縄文食を再現して観光客に体験してもらおうと思います。二つ目は祭りですけれども、祭りはまだこれから検討を進めていく段階で、どういったものを用いるのではないのですけれども、右側の方のイメージですと大湯環状列石というのは単なる集落ではなくて、周りにあった集落からわざわざ集まって造成されたものではないかという考え方があるようです。人と人とを結びつける、1 万年の平和な時代が続いたともいわれていますが、そういった豊かさが伝わるような祭りを、実際に縄文服を着たり、ペンダントなどを再生したり、ミニチュアの土器などを準備したりしながら祭り体験プログラムを用意したいと思います。最後に三つ目として、そういった食とか祭りも含めまして、これらをARあるいはVRで、遺跡を再現することはできませんので、遺跡のところに行ったらどうやって作っているかが感じ取れるような映像技術を用いた再現をしたいと思います。この体験プログラムが一つの観光資源になるのですけれども、土器レプリカについては、例えばレストランや宿泊ホテルでもちょっとした縄文土器が使われて、その縄文土器を作るのが一つのビジネスになっていくような、そういう縄文に関係するビジネスを生み出していければなど、そしてまた先ほど言った好循環につながっていければと思っています。実際にはコロナで土器の試料採取に来られる方がなかなか来れなかったということもありますので、来年度にまたがって2年間で推進したいと思っています。 最後のページですけれども、こういった事業をどのように進めていくかの体制についてまとめています。二つの会を設置していますが、右側の方が考古学の専門家、それから観光に生かすという意味で藻谷さんなどの地域づくり関係の方に入っていて、ここで時代考証などの検証をします。これまでに検討委員会を2回開催しました。それから左側が、地域としては最も重要と思っていますけれども、この事業を進める協議会、ゆくゆくはこの事業が終わったらヘリテージ・ツーリズムの推進協議会に移行したいと思っていますが、文化財、観光関係、さらには県や行政の方に入っていて、地域をあげて保存と活用のバランスを取りながら進めていく体制がとれればよいなと思っています。非常に簡単ですけども、こういった形で鹿角市唯一無二の強みであると思っているヘリテージを生かした取り組みを、市長部局と教育委員会が連携して進めていければと思っています。説明は以上です。
関市長	はい、説明が終わりました。ただいまの説明につきまして、委員の皆様方からご意見ご質問等がございましたらご発言をお願いいたします。はい、安倍委員。

安倍教育委員	はい。意見といたしますか、ちょっと作ってきたものがありますので、これを皆さんに2枚ずつお配りいたします。 たまたま今年4月に秋田県知事と登録に関して意見交換会がありまして、その時に私が述べたものを元にして作ってきたのですが、私も世界文化遺産の当事者になっていきますので、いろいろこれまでの取り組みですとかこれからの展望について、今日は該当するところだけ意見を述べさせていただきたいと思ってきました。せっかくの世界に誇る文化遺産ですので、最初にこの環状列石が特別史跡ということで来たわけですが、なかなか地域でそれほど身近に感じていないのが現状じゃないかなと思っています。どこのものにしてもそうだと思いますが、例えば、有名な花輪ばやしでも、花輪の人たちは身近に感じているけれどもそれ以外の鹿角市民はそれほどでもない、毛馬内盆踊りにしても、毛馬内、十和田地区のものだということで、鹿角全体から見ても狭い地域のものだという感覚があるのではないかなと思っています。また、これを維持していかなければならないし広げていかなければならないけれども、問題は少子化、これから継承していくためにどうしていったらいいかというのが問題だと思います。それをやるためにはいろんな方策があるのですが、人がいないことにはどうにもならないので、今まではやっていなかったけれども、これからは人を募集してでもやっていかなければならないけれども、誰でもできるというわけではない。そこはきちんとした規則なりを作って人を集めていかなければ維持できなくなってくるのではないかなと思います。私のところにしても今年正月2日にやりましたけれども、いつも6人でやっているのですが4人しか人が集まらない。コロナの影響もありますけれども、こういうところを十分に考えて対処しながらやっていかなければ、せっかくのものが失われてしまうことも考えられます。世界遺産の中でも地域遺産と言われていますが、観光に生かすためにはいろいろなことをやらなければならないのですが、説明の中にもあった映像とか音声というものを取り入れて、スマートフォンなどで説明を聞ける、映像を見れる、そういうものも活用して、来ていただいた方々に理解を深めてもらえるし楽しんでもらえる、そして長い時間滞在してもらえるようなことも必要ではないかなと思います。そのためには、鹿角市民の理解も必要ではないかなと思います。学校教育の中で子どものときから大事なものだとして理解してもらい、幸い4年生の副読本に大日堂舞楽が載っているということもあって、この頃はほとんど市内の4年生は来て私の話を聞いたり映像を見たりして、学校へ帰っているのかなことを話しているようです。昔は必ずこの環状列石が教科書に出てきたのですが、今はほとんど取り上げられていないので、市民へ広報したりマスコミを利用したり、いろんな形で市民が理解を深められるようにしてもらいたいと思います。そして最後に書きましたが、鹿角市内至るところに文化遺産のシンボルを、例えば道路標識の下に設置してもらったりいろんなやり方があります。中にはそういうことをしている町もあります。ですので、そういうことをしていけばいいのではないかなと思います。簡単ですが終わります。
関市長	ちょっとお聞きしたいのですが、大日堂舞楽伝承1300年記念公演のときに、宮内庁の舞楽部が来られて、大日堂の皆さんと宮内庁の舞楽部が共演されたということで、私もコモッセで拝見したのですが、宮内庁の舞楽部は大変歴史もあるし文化的なレベルで日本トップなのですが、そこと大日堂舞楽保存会の皆さんが共演するということは、鹿角だけではなくて日本全体の舞楽という考え方からいうと画期的なことであつたと思っていますし、特に駒踊り、大日堂舞楽の原型は日本最古のものだとの説明もありました。あの時の映像はインターネット上で公開しているのでしょうか。

安倍教育委員	あの時の映像は私のところで全部収録しています。これは神社の話になるのですが、来年がちょうど神社ができて1500年の年に当たるので、記念事業を行っていただき、ご寄附をいただいた方にその映像を差し上げているのです。販売するとなると問題があるらしいので記念品として差し上げるということで、少し編集はしていますがすべて映像がございます。
関市長	非常に重要な舞楽だなと思っています。ありがとうございました。 あと他にご意見ございませんか。田中委員。
田中教育委員	はい。今日はこういう機会を設けていただきありがとうございます。今話題のヘリテージのツーリズムということでございまして、せっかくの機会ですので、大義的なことの確認と先ほどから話題となっている保存と活用ですが、保存をするためにはなるべく公開しなかったり見せなかったりという今までの風潮もありますが、それを活用するというところでいろんな意味で新しい試みをしなければいけないという観点も含めてお話しをさせていただきたいと思います。まずヘリテージという言葉とツーリズムという二つの言葉が合わさったものですので、一つは歴史文化遺産、産業遺産、それから芸術文化様々なものを多分ヘリテージと呼んでいるのだと思います。それをツーリズムという形で誘客をしながら経済を回していくんだという意味あいだと思うのですが、鹿角市の第7次総合計画の大きい柱の二つ目にヘリテージのツーリズムを利用しながら、保存と活用ということを掲げられていて大変素晴らしいなと思っています。ただし、この言葉を考えますと、豊富な文化遺産、歴史遺産というものをきちんとした形で保存することと活用することとは、ともすると相反するようなことにもなりかねないなというのがあります。私はこういったものを利用してどんどん誘客しながらたくさんの人に見てもらうのは大賛成なのですが、いくつかの課題も残されているのかなと思っています。例えば、先ほど安倍さんもお話ししていましたが、総合計画で目標とするのは、誇れる文化遺産のまちだと認識する市民の割合のパーセンテージを入れていますよね。ここでは誘客した人数が何人だとかどれだけ観光客が増えたという割合ではなくて、文化財がたくさんある誇れるまちだと認識できる市民の割合が増えることを目標にしている総合計画だと思いますので、やはり地域の皆さんの理解と協力がなくてはできないことかなということも課題の一つだと思います。例えば世界遺産に登録された大湯ストーンサークルも含めてだと思いますが、私たちはどれだけ市民の立場として考えているのか、いまいち私にはピンと来ていません。確かにメディアにはたくさん出ていますいろいろな事業もやっていますが、正直市民の一人としていまいちピンと来ていないというか、もう少し関心を持ってもいいのではないかなと思っています。ですので一つ目の課題としては、たくさんの方々に関わることによって、ヘリテージという言葉もツーリズムというおもてなしをすることも含めてマッチしてくるのではないかなと思っています。それから二つ目ですが、どうしてもこういった世界遺産、産業遺産、文化遺産、芸術となりますと、今までは団体行動で動いていたものから個人やグループ、研究チームなどバスで移動するというよりは小さい単位で移動することが多くなるのではないかなと感じています。それともう一つは訪れる方のレベルの差です。例えば研究者の方もいるでしょうし、全然知らないのだけど今話題だから寄ってみようかなという人もいていろんな差があると思います。ですので、JOMON体感推進事業のイメージとして大変素晴らしいプランを掲げていらっしゃるんですけど、画一的なプログラムだけではなくて専門的なコースですとかもうちょっと簡単なコースですとか、少し強弱をつけないとならないのではないかな

	いかと考えました。三つ目ですが、私が今までいろいろ訪れた中での感想なのですが、やはり一つではなくストーリーをもって、せっかくストーンサークルに行ったのであれば、そこだけではなくてそのあと産業遺産である尾去沢鉱山に出向くとか大日堂に行くとか祭り展示館に行くとか、若しくは先ほど教育長が言われた70を超える文化遺産に触れてみるとか、そういうストーリー性が必要ではないかと思ひまして、ツーリズムという意味ではストーリーを作るべきではないかと思ひます。それと浪漫ですね、ストーリーと浪漫が必要だと思ひますので、あまり強調せずに多分こんなじゃないかと想像させるというか、あまり表現しすぎると浪漫がなくなってしまうて現実の話になってしまうので、浪漫を求めるためにはちょっと隠すところとかこんなじゃないかなあというところがあってストーリー性を持たせた方がいいのかなと、この三つが私の考えです。
関市長	ありがとうございます。あまり知られていないのですが、先般、大東建託がアンケート調査した中で、鹿角市を大変高く評価したものがあります。ちょっとどういう内容か説明をお願いします。
政策企画課長	はい。これは民間の住宅会社がインターネットでアンケートを取って東北のランキングをつけたものですが、その中でやはり鹿角市は自然、観光、静かさ、治安というところに、東北の中でもかなり高い評価をいただいているという調査結果でした。そのほか、東北の中で誇りを持っているのかという地域のランキングもありましたがその中でも20位というアンケート結果でした。いろいろ都会と違うようなところはありますけれども、鹿角市が鹿角市らしくこれからも持続可能なまちであるというところの評価を考えますと、やはり都会にはないような価値をいかに蓄積していくのかというところが地域が続いていくための一つのキーワードとなり、その時の一つの手段として今ある文化資産、地域資源などをPRだけでなく、もっとより高度に活用していくことが市民の経済活動や営みにもつながり、少子化対策にもつながっていくものと思ひますので、そういったことが大事だということで、7次総の計画の中で入れさせていただきます。
関市長	私も市長になるまで知らなかったのですが、大東建託の調査は今課長が説明したとおり、今までの市役所または教育委員会がいろんなところで発言していただいた成果で、徐々に浸透してきているのだと思ひます。なので、今の田中委員のお話をいただいて、今までの市の取り組みにプラスアルファして適宜取り組んでいければと思ひます。
田中教育委員	そのアンケートというのは住民の方が答える形なのですか。それともどなたかが外から見て鹿角市を評価されたアンケートなのでしょうか。
政策企画課長	東北の方のインターネットアンケートですので、おそらく建築会社のネットワークで把握できる住宅関係の入居者の方などに東北管内でのアンケートをとったものと思われまふ。
関市長	市長の立場上、今まで鹿角市はこうやって頑張っているんだと言ひていましたが、今のアンケートはけっこう客観的に外から鹿角市を見ての評価だと思うので、あとで委員の皆さんにその資料をお渡しできるようにしたいと思ひます。
田中教育委員	ありがとうございます。そういった形で外部から鹿角市を評価していただいて、魅力度が高いというお褒めのアンケート結果だと思ひますので、大変ありがたいと思ひます。私が先ほど申し上げましたのは、そこに住む方々が自分の故郷に誇りを持って、若しくはこういう資源がたくさんあって素晴らしいよと、自分が住んでいる場所を認

	めるということを高めないといけないと思いますので、ヘリテージ・ツーリズムとはちょっと観点が違いますが第7次総合計画の指標は多分市民の自己肯定感を高めるということだと思いますので、たくさんの歴史遺産や文化遺産、産業遺産があることをもっと広く市民の方々が知って、市民全員がガイドになれるくらいの形で向かうと、このツーリズムは成功するのではないかとということも含めまして、市民の自己肯定感を高める取り組みをされた方がいいという意見であります。
関市長	ありがとうございます。事務局の方からは何かありますか。
教育次長兼生涯学習課長	今回、大湯環状列石が世界文化遺産に登録されたわけですが、この登録にあたってはいわゆる世界文化遺産というもののあり方というものをきちんと定めておりまして、その遺産を将来にわたって守ることと、その価値を正しく伝えること、これが非常に大きなウエイトを占めております。それをいわゆる保存と活用という形で表現しているのですけれども、保存に関しましてはこれまでも環境整備などを行っておりますけれども、今後さらに将来につないでいくためには人を作らないといけませんので、ガイドの育成に取り組んでいますけれども、それともう一つ、価値を伝えるという部分では、学校の中での学びですとかそういったものが文化財側から見れば出てくるのですが、もう一つやはり地域経済とも切り離せない活動でありますので、価値を伝えて地域の活性化につなげる、それが保存につながっていくというサイクルを意識して私どもも取り組んでいきたいと思っております。
関市長	花輪駅前に、初めて世界文化遺産のまちづくりという看板を出しましたし、あんたらあの方にも世界遺産指定のお祝いののぼりも立てていて、田中委員がお話しされたようなことを全市をあげて取り組んでいます。
産業部次長兼産業活力課長	駅前の観光案内所の建物は市の所有ですが、看板は市民の方が有志で寄附を募って作っていただいたものです。
関市長	田中委員もそのメンバーですよ。
田中教育委員	観光案内所の看板ですよ。あれは祭典委員会の方で作ったものです。
産業部次長兼産業活力課長	祭典委員会は事務局がありませんので、団体名は活性化協議会という形になります。
関市長	釈迦に説法でしたね。それでは吉田委員お願いします。
吉田教育委員	文化のまちということで、教育長がお話された70以上の文化財があるということに一市民として知らないことがまだまだあるという認識でいます。ふるさとキャリア教育を通して子ども達に伝えている状況でもありますし、横のつながりというか他校に自分たちの地元の誇れるところを披露するという場を持っているのが若い人たちのかなと思っています。自分のまちを誇れるという認識を持って大人になっていくことも大事だと思っています。 あとは、ヘリテージ・ツーリズムを推進していく上で、田中委員がおっしゃったように、団体客も大事だと思いますが、これからはSNSの活用であったり、個人への対応を大事にすることによって、次の団体客や個人客につながると思うので大事にしたいと思います。もう一つは、せっかく来ていただいた場合に、体験する場を一つでも二つでも多くいろんなところで結び付けることで、滞在時間を長くして鹿角の良さを深く知っていただく、通り過ぎるだけではなくて長い時間見ていただくことで感じていただくことが多いまちになればいいと思いますし、またそれを観光客の方だけではなく市民の人も滞在することができるようになればいいと強く思います。以上です。
関市長	ありがとうございます。事務局の方からどうぞ。

教育次長兼生涯学習課長	体験ということに関しては、ここの会場も体験工房として大湯環状列石、縄文にちなんだ形での勾玉づくりなどをやっていますが、参加される方が非常に伸びていまして、やはり遠くからいらした方はこういった体験というものを重視しているんだなど実感しているところでもあります。ですので、こういったメニューの充実というのも今後の課題となってくると思いますので、取り組みたいなと思っています。また、花輪ばやしについては、あんとらあがリニューアルしたこともあり、祭り展示館の中で映像も含めて非常にわかりやすいものが展示されております。先ほど安倍委員からもありましたが、映像というものは非常に重要なコンテンツとなりますので、最初に産業活力課から説明のありましたAR、VRに取り組みますので、そういったものを有効活用していければと思っています。
産業部次長兼産業活力課長	補足しますけれども、体験プログラムで縄文土器で煮炊きするという付加価値を付けますが、沸騰して食べるまでに1時間ぐらいかかりましたので、それだけでも滞在時間が伸びますので、そういうところで滞在時間を伸ばしたいなと思っています。
関市長	よろしいでしょうか。
吉田教育委員	はい、あと一つ、ちょっとずれるかも知れないのですが、市内の十和田高校さんと「かつの学」というものに力を入れていて、グループに分かれて鹿角のいろんなことを体験したり、学んだりすることが何年か前から続いているのですが、花輪高校だとそういう活動があまり聞こえてこないもので、統合した場合、プロモーションの中に高校生広報室というのがありますので、ぜひ一部だけではなくて、高校生の活躍の場もできればなと思っています。
関市長	高校については県の教育委員会の方が担当ですので、教育委員会の方から県の方にお話ししていただければ。
教育部長	十和田高校の特色としては、今吉田委員がおっしゃったように、ふるさとキャリア教育に非常に熱心な特性があります。これは非常に誇れることだと思っていますし、私方もふるさとキャリア教育をやっていますが、連絡を取ったり年1回会議でいろいろ意見交換もしていますので、必ずや統合校にもつながるものだと確信しております。
関市長	よろしいでしょうか。
吉田教育委員	ありがとうございます。
関市長	和田委員をお願いします。
和田教育委員	はい。今回、大湯環状列石が世界文化遺産に登録ということになりまして、まさに悲願達成ということで大変ありがたいことだと思っていたのですが、地元から見るとあまりにもこのストーンサークルというものが身近すぎてですね、例えば自分が外に出て行って世界遺産を見に行ったというような感覚になっていない市民が大多数だと思います。いつ行ってもそこにあるものという感覚がまだ強いと思いますので、まず市民のそういった感覚を少し変えていかなければヘリテージ・ツーリズムという中で迎え入れるとなったときに市民がこぞってお客を迎えるという感覚になかなかならないのではないかなと思っています。あと、資料にありますとおり、大日堂舞楽、花輪ばやし、毛馬内盆踊りとあるのですが、年代がそれぞれずれておりますので、多分大湯ストーンサークルが一番古いと思いますが、どのようにつなげて鹿角市として1パッケージを作り上げていくのが課題なのではないかと思っています。これ以外にも説明の際に出ました佐多六とシロの話であったり、以前鹿角市で取り上げていただいた鹿角三姫の話もありますし、今まで積み上げてきた様々なものがありますので、それに関してもう一度再考証してまとめ上げて、縄文だけではなく時代の流れとともに

	現在の鹿角市がどのように出来上がっていったのかということアピールできるものを作り上げていかないとぽつぽつと単発のものだけになってしまっていて、見る人がこれだけだったとなってしまうのはもったいないと思います。ツーリズム、旅行ですので、遠くからこちらに見えられる方若しくは自分たちが遠くへ出かけるときはやはり非日常を求めて出かけていくところがあると思いますので、せっかく来てくださる方々に非日常を提供できる準備をして総合的にどういった形が望ましいのか、新しく創り出すことも大切ですが、今までの積み上げも十分にあると思いますので、そういったものを再検討、再構築していくことによって、よりよいものを一つの形にまとめ上げることができると思います。また、心配事でもあるのですがたまに熊が出たりしますし、近くに黒又山もありまして登りたいという人も結構いますし、自由に山頂の神社まで行って参拝している観光客の方もいるようです。ただどうしても危険が伴うこともありまして、そういったところも気をつけていかないと、熊で有名になった鹿角市でもありますので、そういった部分で取り上げられてしまったらせっかくの世界遺産登録に水を差すようなことになりかねませんので、やはりこういった地域ですので気をつけるべきところは気をつけるように少し対策が必要なのではないかと思います。あと、繰り返しになりますが、あまりにも地元過ぎて感覚が薄いので、世界遺産という素晴らしいさを子どもの頃からきちんと教えてあげないとピンと来ないまま大人になって、例えばこの地域を巣立って行ったときに、行った先で自分のところにはこういうものがあるといつでも伝えられるような人に成長することを期待したいのですが、なかなか自分の出身地にこういうものがあるんだと言える子どもが少ないのかなと思いますので、そういったところにもぜひ力を入れて子ども達を育てていってもらえればと思います。いろいろ準備も大変ですし試行錯誤もあると思いますが、まず出来ることを練り上げて、よりよいものにしていただければと思います。
関市長	どうもありがとうございました。今和田委員からいろいろご意見がありましたけれども答弁の方はどちらの方で。
産業部次長兼産業活力課長	総合教育会議の場で事務局から答弁するのもおかしいですが。いろんな年代をつなぐというのは非常に難しいなと思っていますし、前に鹿角のブランド化をどう醸成してPRしていくかという時もだいぶ苦労したのですが、このとおり本当にたくさんありすぎて、それを一気に見てもらうのは難しいのかなと思っています。ですので市としては、プレミアムツアーの時には、当面の間大湯環状列石が世界遺産効果でキラーコンテンツになりますので、これを核に、尾去沢鉱山とか茜染めの体験とかを組み合わせたものを提示して体験していただくことと、それぞれの紹介を丁寧に情報発信できるようにして、こちらに来た人が着地型商品として空いた時間で体験できるコンテンツを増やしていきたいと思っています。あと、個人として刺さるコンテンツが違うと思いますので、なかなかこれぞ鹿角のヘリテージというものは難しいと思っていますので、ツアーの中では代表的なものを用意しながら、あとは、来た人に伝わって自分の好みで組み合わせるようなやり方をしていきたいと思っています。
関市長	ありがとうございました。和田委員から佐多六とシロのお話しもあったのですが、先般の会議で女性の方から、鹿角は伝説と民話の多い地域で、伝説が100、民話が約200、全部で300あるのは全国でも珍しい伝説と民話の里でもありまして、特に鹿角昔語りの会がボランティアで熱心に取り組んでいますので、そういうものもヘリテージの中に入れてPRしたらどうだろうかということもお伺いしております。教育長がお話しされたように、鹿角の場合は非常に多くありすぎて全体をどう整理して

	いくのかこれがこれからの大きな課題なのかなと思っています。あと、クロマンタは日本のピラミッドなのでもう少しケアしたらどうだろうかとか、熊はあのあたりに出ると言われているので安全にも注意していかなければいけないかなと思っています。あと、熊対策は鈴とかありましたか。
教育次長兼生涯学習課長	はい、熊対策は大湯環状列石に限って言えば、電気柵を設置しながら見学者の安全を確保して対応しているところです。しばらくはこの状態が続くだろうと思いますし、どんどん見学できる範囲を広げるように電気柵の管理をして安全確保を図っていきたいと思います。もう一つ、身近すぎて世界遺産の価値の理解がなかなか得られないということについては、この登録をきっかけに全国のテレビ局から取材が多くあります。世界遺産の価値を外の人がどのように評価しているのかわかりやすく伝えるにはメディアの活用というのが大きいかなと思っていますので、そういった部分はぜひ積極的に協力しながら露出を増やしていければと思います。
関市長	ありがとうございます。和田委員よろしいでしょうか。 各委員からご意見いただきましたが、これ以外に何かご意見ありますでしょうか。田中委員。
田中教育委員	はい。私のツーリズムとかいろいろな観光旅行の体験からいいますと、行く前に情報サイトやら口コミやら写真やら映像コンテンツやらで大体情報、知識を得て行くところを選ぶのです。何を言いたいかというと、先ほどキラーコンテンツがストーンサークルだと話されましたけれども、旅行と考えたときに引かかるポイントというか、どれだけ情報発信をしているかというのが大事だと思うのです。ですので、大きなポイントとしては大湯環状列石だったり大日堂舞楽さんだったり史跡尾去沢鉱山だったりお祭りだったりが大きくぶら下がるのだと思いますが、そこに行ったら、例えば教育長のお話のとおり70を超える文化財があるよとか、こういった伝統があるよといったものを、ホームページとは言いませんけれども一つのリンクサイトを作ってやるような研究チームなどを作れないものでしょうか。若しくはヘリテージにつながる情報の発信やホームページなどを今のJOMON体感促進事業推進協議会などでもめないものでしょうか。
関市長	教育委員会の生涯学習課ではYouTubeで動画を出してしまして、これが最近アクセス数も多くなっていますね。
教育次長兼生涯学習課長	はい。昨年のコロナ禍を発端にして取り組んでいます生涯学習のYouTubeチャンネルですが、いろいろなコンテンツ、映像素材などをアップしていますが、その中で特に文化財、大湯環状列石に限らず、市の指定文化財の映像が今までありませんでしたので、そういったものを外に情報発信しようということでやっています。お祭りですとか地域行事も含めて生の情報も伝えられるように。今市長が言いましたとおりアクセス数も徐々に増えておりまして、これを見て興味を持ったという方もいらっしゃると思います。そういった部分では非常に有効な手段ではないかなと思っています。
田中教育委員	はい、ありがとうございます。私もすべてのチャンネルを見ておりますので、いいねを押していますので十分存じ上げております。素晴らしい活動だと思います。言いたいのは、先ほど言った70を超える文化財とか伝統ですとか芸術というものを単品では出していると思います。YouTubeも検索すればヒットするという形だと思うのですが、それをポータルサイトにできないかと。鹿角のポータルサイトが必要ではないかという意見で、例えばキラーコンテンツである大湯環状列石でヒットしたなら、次に何々がある、その次に何々があるというようなポータルサイトを作られたらいいの

	ではないかと。ただ、いろいろな民話ですとか食材ですとか非常に多岐にわたるので、協議会のような専門家の方々が集まって議論してポータルサイトを作り上げていくようなものが、すべからくヘリテージの方につながっていくのではないかとということも含めて、ポータルサイトを作っていただくような取り組みができないかなという意見です。
関市長	ありがとうございました。ポータルサイトとなれば・・・
産業部次長兼産業活力課長	観光の方ではDMOのサイトをメインにしたいと思ってしまして、確かに教育委員会のホームページとDMOをどうつなぐかということが課題かなと思っています。市でも大湯環状列石のページはありますしDMOでも作っていたりして、見栄えからいうとDMOの方がいいなと思っているところもあるのでその辺は調整したいと思っていますが、新たに作るというよりはそのリンクをどううまく設定できるか、既存のページをつなぎ合わせる方が現実的だと思っていますので、協議会とまではいかなくても、関係者でうまく調整したいと思います。
田中教育委員	例えば、GoogleMap というサイトを見ると食事から観光から温泉まですべての情報が手に取るようにわかるようなものが地元でいっぱいあります。そういったものもうまく活用できれば、わざわざ作らなくても一つのサイトがあってそこからいろんなデジタルコンテンツにつないでさえあげれば、情報として作用していくと思いますので、そういった仕組みを、既存のものをうまく使いながらやっていくということも含めて提案させていただきたいと思います。
関市長	わかりました。あとよろしいでしょうか。和田委員どうぞ。
和田教育委員	はい、今お話にあったようにどこから火がつくかわからないので何に備えろというのは難しいところなのですが、鹿角市の文化財があると思いますので、そちらの方に話題が向かう場面があるかも知れないですけど、文化財の保護保存に関して個人所有になっているものもけっこうあると思うのです。そういったものについて教育委員会から保存、管理状況の確認の案内が行くと思うのですが、実際どうなっているのかは管理者任せになっていてなかなか難しいところがあると思います。そういったところもどうしていくべきなのか、少し指針なりがあった方が、見たいと言った時に、見せる見せないいろいろ意見があるでしょうし、受け入れるとなった時にはどの規模でどのくらいのことができるのか、誰が責任を持ってどのように受け入れるのか管理者任せだと可哀想なところもあるので、そういうことも想定して市として何かバックアップができるのか検討していただければと思います。
教育次長兼生涯学習課長	はい。今の和田委員のご意見については、今後の将来的に向けた大きな課題だと思っています。おっしゃるように、毎年文化財の保存状況の確認をアンケート形式で調査しております。そういった中で今言われましたように公開ができるかとか将来の確認についてですとか把握できていない部分がありますので、きちんと把握しながら今後に向けてどういったものが必要になってくるのか検討していきたいと思っています。
関市長	あと他にご意見は。安倍委員。
安倍教育委員	あまり話すと長くなるので一つだけ。今までの話の中でストーリー性という話があったのですが、大湯環状列石からずっと今までの歴史で、鹿角を考える場合に、太陽と月、天体が関連しています。私のところの神社は太陽を信仰していたものでありますし、ここの環状列石も夏至とか冬至とか、毛馬内の月山神社も月を象徴していると。夜鹿角を歩いてみるとわかるのですが、こちらの方に来ると月が大きく見えるのです。八幡平で見る月とこちらで見る月とでは全く違います。鹿角でそういういろんな場所

	とか昔話とかそういうものをつなげていくと大変面白いストーリーができてくるとい うことを常々感じています。
関市長	今安倍委員から非常に大事なお話がありましたが、ストーンサークルでは夏至の日 のイベントをやっていますね。
教育次長兼生涯 学習課長	そうですね、夕日を見る会を開催しています。
教育部長	例えば、天体に詳しい和尚さんもいますので、そういった方にご協力いただきなが らいろいろな楽しみ方があると思います。確かに、自由に星を見るには周りも暗いの で最高だと思います。都会の人には天体に興味があるマニアの人もいて大人気らしい ので、そこも含めて産業活力課の方でいろいろ考えてくれると思いますので。
関市長	ありがとうございました。他にございませんか。他にないようですので、ヘリテー ジ・ツーリズムの推進については皆さんのご意見を踏まえながら重点的に講ずべき施 策として進めさせていただきたいと思います。次に次第の5. その他ですが、委員の 皆様若しくは事務局から何かございましたらご発言をお願いします。委員の皆様ご いせんか。事務局の方からはございませんか。他にないようですので会議を閉じた いと思いますが、本日協議が整いました重点施策につきましては、市と教育委員会が 一丸となりまして、さらなる充実を図ってまいります。教育委員の皆様には引き続 きご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。以上を持ちまして、鹿角市総合 教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

(午後4時05分開会宣言)